「日中韓文化交流フォーラム」事業

助成団体
財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団
http://www.bunkazai.or.jp/

仏教からスポーツまで
さまざまな分野での三国交流を推進する。

4回目となる「日中韓文化交流フォーラム」が2008年11月27日に韓国の済州島で開催された。象徴としてのイベントではなく、実質的な討論の場へと転換してきた中で、各国からは数多くのアイデアが出され、すでにその一部が遂行されている。

4回目となるフォーラムは実質的で中身の濃いものになった。

2007年に東京において開催された「日中韓文化交流フォーラム」が、2008年は11月27日に韓国の済州島で開催された。前年度はシンポジウムなども行ったが、今回は関係者による意見交換と会議に特化した。

財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団の事務局長渡邉幸夫さんは

「私たちの事業はもともと地道なもので、あまり絵になるようなことではありませんが、日中韓の友好を今後どのように進めていくかを話しあう場として、このフォーラムを毎年続けています。三国の持ち回りで、今年は韓国で行ったのです」

この財団は、文化財の保存及び活用に関する事業の助成、芸術研究に係る活動の助成及び国内外の交流、世界各地の文化財の保護に関する交流・協力など多岐にわたる活動を行っている。フォーラムはその活動の一環として2005年から開催されている。

今回、日本側の出席者は国際交流基金の小倉和夫 理事長や松尾修吾 理事をはじめ財団のメンバーなどが参加した。中国側は中日友好協会の副会長の劉徳有さんを代表とする委員団、また韓国側は韓日文化交流会議の議長である金容雲さんなどが会議の席についた。

このフォーラムのスタート当初は未整理な部分もあったそうだが、4回目となるとだいぶ慣れてきて、具体的なアイデアが交わるようになったという。

今回の重点課題の1つに「青少年の交流」があった。次代を担う若者たちが、お互いを理解しあえれば将来的に真の結びつきができるとの考えからだ。

「たとえば、サッカーの交流試合や各国語でのスピーチコンテスト、ホームステイなどを行っていくことですね。すでに今年韓国語のスピーチコンテストを行って中国や日本の高校生も参加しましたが、そうした企画をもっと増やしていこうという意見が出ました」(渡邉さん)

考え方の違いをお互いに理解するために文化交流は欠かせない。

また、文化財に関しては韓国の通度寺にある霊山殿多宝塔壁画の修復について、引き続き推進していくということが決まった。この壁画は、すでに中央部分の修復を終え、フォーラムに先立って建造物彩色と壁画の保存修復をテーマとした講演会やシンポジウムを開催している。霊山殿は韓国の国宝であり、その修復には膠を使った精密な技術が必要なことから、日本の専門家の参加が求められたのだ。

「これにはAJOSCの助成金の一部を使わせていただきました。おかげさまで、こうした文化交流はかなり進んできています。三国間には技術もそうですが、考え方の面でもかなりの違いがあります。それは優劣ではなくて個性ですが、お互いに尊重するところから本当の理解がはじまるのです。ですから、さまざまな文化のジャンルでイベントやシンポジウムなどを通じた意見交換をすることが欠かせないのです」と渡邉さんは説明する。

今回のフォーラムではその他にも、互いのアーティストを招いての音楽祭や書道展、大使の講演会などがアイデアとして提案された。その中でもっとも可能性が高いのが、「仏教伝来」をテーマにしたものだ。

聖武上皇の時代、日本に来た鑑真和上は唐招提寺を創建したが、日本に渡海する前に修行したのが中国の揚州にある大明寺である。ところが、韓国にも鑑真にゆかりの寺があるそうだ。三国の文化に大きな影響を与えた仏教だが、鑑真という共通項からもくくれるとなれば、なかなか面白いテーマになりそうである。

担当者より

厳しい経済状況の中、助成をいただいて感謝の言葉もありません。

財団法人
文化財保護・芸術研究助成財団
事務局長
渡邉幸夫さん

世界的な経済危機の影響もあって、我々の事業も非常に厳しい状況にあります。しかし、人類をここまで進化させてきたのは文化です。その火が消えないようにすることが私たちの事業の目的です。地味な作業ですが、AJOSCのご理解を得られたことを心強く感じております。

済州島で開催されたフォーラムの様子

講習会の様子

ワークショップも開催された